



丸中ゴム工業株式会社

代表取締役社長

あぶかわ じゅんご
虻川 淳悟

Profile

昭和53年6月生まれ、47歳。
東海大学を卒業後、SEの仕事を経験し、平成18年に丸中ゴム工業株式会社に入社。その後、モスグラス事業部 部長を経て、平成27年4月、代表取締役社長に就任した。趣味は筋トレや登山など。



【優良企業ガイド 2027】TSR企業コード:400625326

丸中ゴム工業株式会社 ジャバントラスティ株式会社、サンアッド株式会社、鳩山鉄工株式会社

本 社 / 〒467-0861 愛知県名古屋瑞穂区二野町4番11号
TEL:052-889-5556 FAX:052-889-5558
U R L / https://www.marunaka-rubber.co.jp/
設 立 / 昭和56年12月(創業:昭和56年12月)

従業員数 / 54名(男性43名、女性11名) 平均年齢38.9歳
売上高 / 25億7,800万円(令和7年4月)

100%リサイクルを目指して未来を創る 特殊タイヤで世界と日本をつなぐ専門商社

Q1 自社の魅力は何ですか？

当社はフォークリフトなどの産業機械、建設機械用タイヤの専門商社です。この業界のサービスとしては珍しく、当社では国内メーカーが作っていないものは海外から輸入するため、幅広いお客様のニーズに応えられるところが強みです。主に取引している国は10か国ほどあり、スリランカ、インド、中国、台湾、アメリカ、カナダなどは長年にわたり関係を築いてきました。

創業時より経験値とノウハウの集積を大事にし、45年分の知見を蓄積しています。メーカーではなしえない横断的な知見を集約し、どんな古い車両でも最後までお付き合いすることを大事にしてきました。単にタイヤを販売するだけでなく、品質保証から万一の際のサポート体制まで、一貫して当社が担っています。

また、そこから得たエンドユーザーの声を蓄積し、メーカーにノウハウのフィードバックをしています。お客様の使い方に合わせて最適な提案をし、現場発の声で商品化したものもたくさん。「困ったときは丸中ゴム」という声が増えるよう、変化を恐れず、日々チャレンジを続けています。

Q2 社員へのサポート体制で一番力を入れていることは何ですか？

社員のアイデアや意見を積極的に評価し、商品化や事業化につなげる仕組み作りを力を入れています。たとえば、アイデアに対して報奨金やボーナスを出しており、採用された際は必ずチームでプロジェクトを進めることで、意見を出しやすい体制を築きました。過去には社員からの提案で自社オーダーメイドのタイヤを設計したこともあります。ほかにもグループ会社「ジャバントラスティ株式会社」という社名や自社マスコットキャラクターデザインも社内公募から採用しました。自分たちの会社や商品を

「一緒に作り上げた」と感じてもらうことを大切にしています。

また、社員と直接コミュニケーションをとる時間を増やすことも意識。東京や仙台などの遠方の営業でも、年に4回ほど名古屋本社の会議に出席してもらい、その際に、1対1で各社員と面談をすることもあります。社員が抱える課題や不安に寄り添い、一人ひとりが安心して働ける環境づくりを心がけています。

Q3 将来の事業ビジョンは？

中期計画として、2030年までにグループ売上100億円を目標にしています。その一環として当社が取り組んでいるのは、エンドユーザー向けのメンテナンスや、タイヤの回収からリサイクルまでを含めたワンストップサービスです。これまでも地域のタイヤ店と提携してきましたが、これをより体系的にネットワーク化します。

その要となるのがタイヤリサイクル事業です。廃タイヤの処理は業界として長年の課題であり、処理費用だけで莫大なコストがかかります。そこで2026年2月、岐阜の工場に熱分解プラントを自社で稼働することになり、回収した廃タイヤを自社で「再生」することができるようになりました。熱分解でタイヤの原料となるブラックカーボンを取り出して海外のタイヤメーカーへ送り、そのブラックカーボンが新たなタイヤに生まれ変わるという循環を作っています。当社が大事にしているのは「100%リサイクル」。自社から回収してきたものは全て自社リサイクルする世界を作りたいと考えています。

本社前で撮影した社員の集合写真。創業45年の経験とノウハウを活かし、世界10か国から特殊車両用タイヤを輸入・販売する。



フォークリフト用のタイヤは丸中ゴムの柱の一つ。写真は内部に空洞がないノーバンクタイヤになっている。過去には顧客から要望を取り入れ、自社でタイヤの設計をしたことも。

